

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成25年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成25年度～平成27年度
5. 課題番号

2	5	3	5	0	2	1	1
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 共通教科「情報」における情動的な見方・考え方を育成するカリキュラム開発

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 2 4 5 2 9 8	ホンゴウ タケシ	社会情報学部	教授
	本郷 健		

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
7 0 2 3 9 5 8 1	モトムラ タケノリ	群馬大学・教育学部	教授
	本村 猛能		
8 0 3 3 4 1 4 2	ヤマモト トシカズ	埼玉大学・教育学部	教授
	山本 利一		

9. 研究実績の概要

本研究1年目に当たる年度は、「情動的な見方・考え方」を提案するための基礎的な情報の収集を行った。伝統的な教科である数学科における「数学的な見方・考え方」、理科における「科学的な見方・考え方」について、文献調査および専門家（大学教員等）への聞き取り調査を行った。また、本テーマの主題の直接的な調査として「情動的な見方・考え方」の内容についての聞き取りおよび提案を引き出す調査として、社会的情報システムを構築してきた企業人（Suiica 開発者）および情報科教育を推進している中心的な人物に聞き取り調査を実施した。これらの基礎調査をもとに、研究分担者とディスカッションを行い、具体的な提案へとまとめている段階である。

一方、「情報とは何か」という基本的な概念の再構築のために、情報システム学会の「基礎情報学研究会（西垣通）」に定期的に参加し、新たな情報の知見を再整理している。西垣通氏の提唱する情報の概念を取り入れ、教育的な観点からの構築を進めている。さらに、海外における情報教育は、その目的・目標を大きく変更しようとしている。イギリスのナショナルカリキュラムの改定やアメリカにおけるプログラミング教育の推進等を分析し、見方・考え方への発展あるいは取り込みを行っている。

このような作業を通じて、現段階で提案しようとしている情報科教育に求められる中心概念は、(1) 分析思考から統合思考、(2) 非集中的なモデル思考、(3) 手続きの自動化の思考、(4) トレードオフの思考、(5) デザイン/設計思考、(6) システム的な思考、(7) サイバネティクス思考 などに収束しつつある。